

広く深く豊かな文学教育をめざして

長編（リアリズム作品）を集団（学級）で生き生きと読む授業づくり

～『ゆっくり大きくなればいい』最上一平作（5年生）～

1 設定理由

現在の子供達はファンタジー作品を好み、自分と向き合うことができる作品（リアリズム作品）を読むことが少なくなっているように思う。自分の生活とつなげて考えられるリアリズム作品を、集団で読み合うことを通して、人間理解を深め、自分の生き方や考え方を見つめ直す読書体験が大切と考える。

2 研究の内容

○自分と向き合うことができる「リアリズム作品」を取り上げ、学級みんなで読み合うことで、自分の生活を振り返り、身近な人々や自然と関わりながら成長していくことの楽しさや素晴らしさを知る授業の在り方について実践を通して明らかにする。

2 4人で読む

（1）作品・教材研究

（2）授業づくり

①作品の読みの見通しを持たせる。④小グループを編成して話し合う。

②主人公「健」の視点で読み進める。⑤自分の生活を振り返る。

③四つの短編を関連づけて読む。⑥思いを自由に言い合える過程を大切にする。

作者と読む

・作者の思いを感じとる場を設定する。

家族と読む

・学級だよりを通して、話し合いの様子を家庭に伝え、家族で語り合う時間を作る。

3 結論

〔24人の仲間と読むことで、作品への思い入れができ、読みが深まった。〕

○全体の構成を確認してから、見通しを持たせて短編ごとの読みの視点を「健」の行動や思いに絞って作り上げることで、長編作品でも話し合いの視点が絞られ、読みが深まった。

○作品を読み進めていく中で、自然の様子での共通点や健の心の様子の描写などを中心に短編同士の関係に気づかせたことで、話し合いに参加する子ども達が増えてきた。

○自分とも向き合いながら読み合うことで、今まで気づかなかった人の値打ちや自然との関わりなども感じて話し合うことができた。

〔作者と読むことで、作者の思いを知り、作品理解が深まった。〕

○作者とのかかわりを持つことで、作品への思いや作品を通して伝えたいこと、日常の中でどのように関わり合いながら成長していったかを知ることができた。

〔家族と読むことで、作品を共有し家族と語り合うことができた。〕

○学級便りを通して授業で話し合われたことと感想を家庭と共有することで、作品について家族で楽しむ家庭が増えていった。